

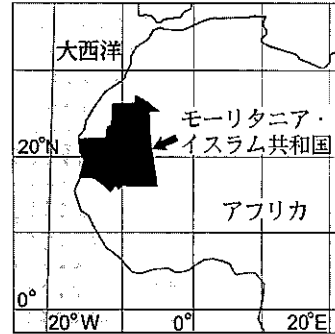
# 世界の地質調査所紹介

## —モーリタニア地質調査所—

渡辺 寧<sup>1)</sup>・内藤 耕<sup>2)</sup>

### 1. 沿革

モーリタニア・イスラム共和国は西アフリカに位置し、日本の約3倍の国土面積(1,030,700km<sup>2</sup>)を持っている(第1図)。外貨獲得の約半分を鉱物資源の輸出に頼っている同国では、鉱物資源ポテンシャル評価が国の重要課題である。モーリタニア地質調査所(Office Mauritanien de Recherches Géologiques; OMRG)は国家を代表する組織として同国の鉱物資源ポテンシャル評価を行う目的で1980年に設立された。炭化水素を除くすべての鉱物資源を対象としており、鉱徴地の発見とポテンシャル評価を行う。その役割は新しい政策のもとで広げられ、現在では同国での民間鉱山会社の野外調査に対する契約ベースの技術協力も行っている。政府直属の独立行政法人であるが、鉱工業省の施策の実施部隊でもあり、鉱業法で指定された投資促進区域(Promotional Zone)の地質調査と鉱床評価を行っている。



第1図 モーリタニア・イスラム共和国位置図。

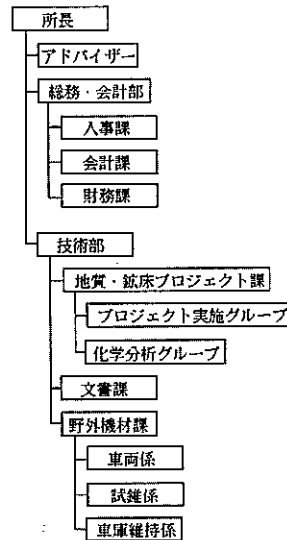
### 2. 組織・人員・装備

OMRGは総員105名。ディメラ・ウマル(Djimera Oumar) 所長(写真1)のもと2名のアドバイザー、16名の地質技師、7名の地質技師補、6名の試験

技師、2名の化学分析技師が所属し、2部6課からなる(第2図)。地質・鉱床プロジェクト課がOMRGの中心であり、ほとんどの地質技師、地質技師補がプロジェクト実施グループに所属する。化学分析グループは、各種岩石粉碎機、原子吸光分析装置、偏光・反射顕微鏡を備えており、採取された試料の化学分析が主要な業務である。年間約8,000



写真1 ディメラ・ウマルOMGR所長(写真中央)。



第2図 OMRG組織図。生活環境の厳しいサハラ砂漠での調査を行うので野外機材のメンテナンス部門は重要である。

1) 産総研 地圏資源環境研究部門  
2) 産総研 国際地質協力室

キーワード: モーリタニア, 地質調査所, 鉱物資源探査, OMRG

第1表 OMRGの行ってきた主なプロジェクト.

期 間	プロジェクト名	協力機関	内 容
1983-1991	モーリタニア南部地域 鉍化ポテンシャル評価	EUの資金提供	モーリタニア変動帯南部の鉍微地調査および塊状硫化鉍床発見のための物理探査および地化学探査.
1988	Nouakchott北方の硫黄 調査		Nouakchott北方60kmのCuprit地域に分布する石膏層に伴ういくつかの硫黄鉍微地調査. 銅の鉍微を捉えたが, 硫黄は深部(1000m)に位置.
1990年代	Adrar地域での鉛・亜鉛・銅調査	仏・モーリタニア政府資金提供	Taoud éni堆積盆東部国境付近の堆積岩中のベースメタル調査.
1990年代	モーリタニア西部の褐炭の埋蔵量・品質調査	モーリタニア政府	褐炭を燃料として使用することにより, 住民の森林伐採を防ぐことが目的. 500万m <sup>3</sup> の褐炭埋蔵量を評価.
1993-1996	Tasiast地域の金ポテンシャル評価	EUの資金提供, BRGM(仏)と共同調査	地質調査, 地化学探査により広範囲に金の地化学異常域を発見.
1997	Akjoujt東部地域の金ポテンシャル評価	BRGM, GGI(蒙)と共同調査	Akjoujt東部地域の金鉍微地の試錐によるポテンシャル評価.
2001-2005	Oussate-Sfariates地域の金鉍化ポテンシャル評価	EUの資金提供, 英国地質調査所と共同	Reguibat楯状地Oussate-Sfariates地域で発見されたマイロナイト帯の金鉍化ポテンシャル評価.



写真2 OMRG本部入り口. 2階部分に描かれているのがOMRGのロゴマーク.

試料の分析を行う。文書課では、仏植民地時代からモーリタニアで行われてきた鉍床調査に関する報告書が保存されている。現在進行中の世界銀行による鉍業セクター強化プロジェクトによる地球化学情報データベースの情報も共有されている。OMRG敷地内には本部(写真2)、車庫、化学分析棟、試料保管棟の建物がある。野外調査機材として、地質調査用車両数台、測量機材、2台のボーリングマシンを持ち、サハラ砂漠での長期間の調査の際に使用する大型冷凍庫、冷蔵庫を備える。

### 3. 主な活動

設立以来幾つかのプロジェクトを国外の機関と共同で行ってきており(第1表)、調査地域の地質図、地化学探査図を出版している。Tasiast地域の金ポテンシャル評価プロジェクトでは、地質調査、地化学探査により広範囲に金の地化学異常域を発見し(Artignan *et al.*, 2000)、モーリタニアに欧米鉍山会社の進出ブームをもたらした。現在Oussate-Sfariates地域の金鉍化ポテンシャル評価を英国地質調査所と共同で行っている。将来的にはダイヤモンドの探鉍も行う予定である。また2003年度からは、同国の鉍物資源開発促進を目指した戦略プロジェクトをJICAの協力で始める予定である。

### 文 献

- Artignan, D., Maurin, G., Bellal, A.O., Dieye, A. and Thaleb, A.O. (2000): Déouverte d'une nouvelle province aurifère dans l'Archéen du Tasiast et du Tijirit (Mauritanie). *Chronique de la Recherche Minière*, No.538, 3-16.

WATANABE Yasushi and NAITO Koh (2003): *Geological Surveys in the world-Office Mauritanien de Recherches Géologiques (OMRG)*.

<受付: 2002年11月22日>